

新潟焼山の火山活動解説資料（平成 31 年 4 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

噴煙活動及び地震活動は低下した状態が続いています。
しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・ 表面現象の状況（図 2、図 3－①、図 4～5、図 9）

噴煙活動は低下した状態で経過しています。今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上 100m 以下で経過しました。

17 日に新潟県消防防災航空隊の協力により実施した上空からの観測では、噴気の勢いは弱く、B 噴気孔から高さ 10～20m 程度まで、C 噴気孔から高さ 2～3m 程度まで上がっていることを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、B 噴気孔およびその周辺で高温領域が認められましたが、前回（2018 年 10 月 23 日）の観測と比較して、顕著な変化は認められませんでした。

- ・ 地震や微動の発生状況（図 3－②、図 6～8）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。

火山性微動は観測されていません。

- ・ 地殻変動の状況（図 1、図 3－③④）

GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

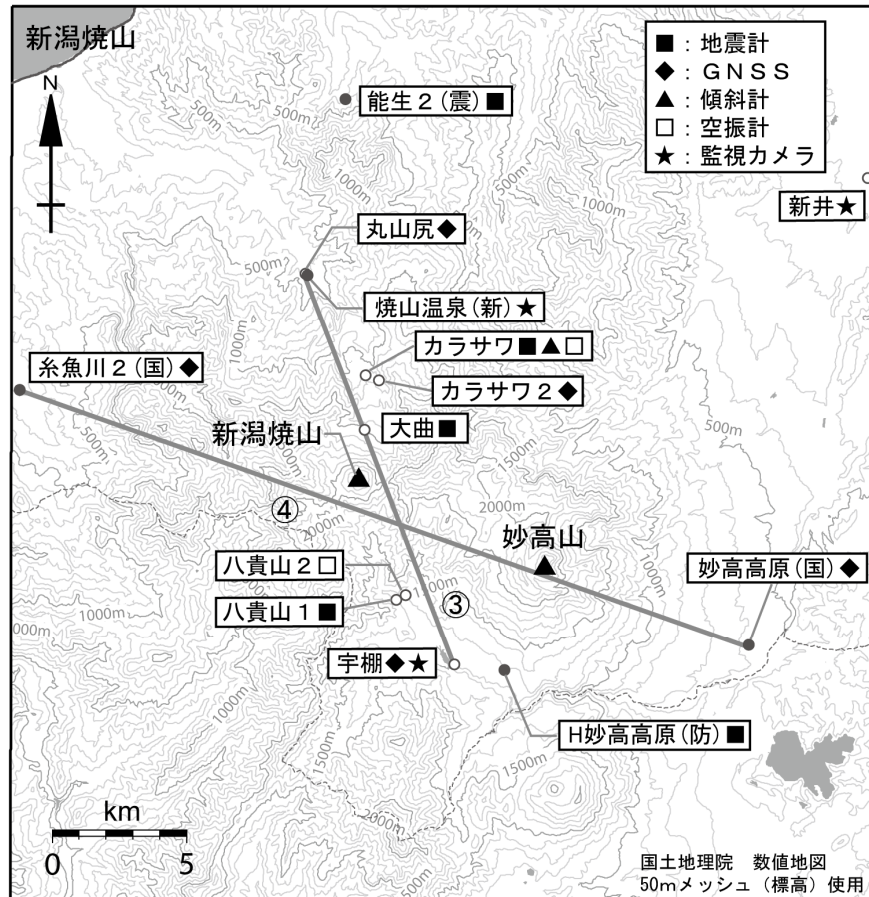
次回の火山活動解説資料（令和元年 5 月分）は令和元年 6 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所、（新）：新潟県

図1 新潟焼山 観測点配置図

（GNSS 基線③④は図3の③④に対応しています）



図2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況

（左：焼山温泉監視カメラ（4月18日）、右：宇棚監視カメラ（4月4日）による）

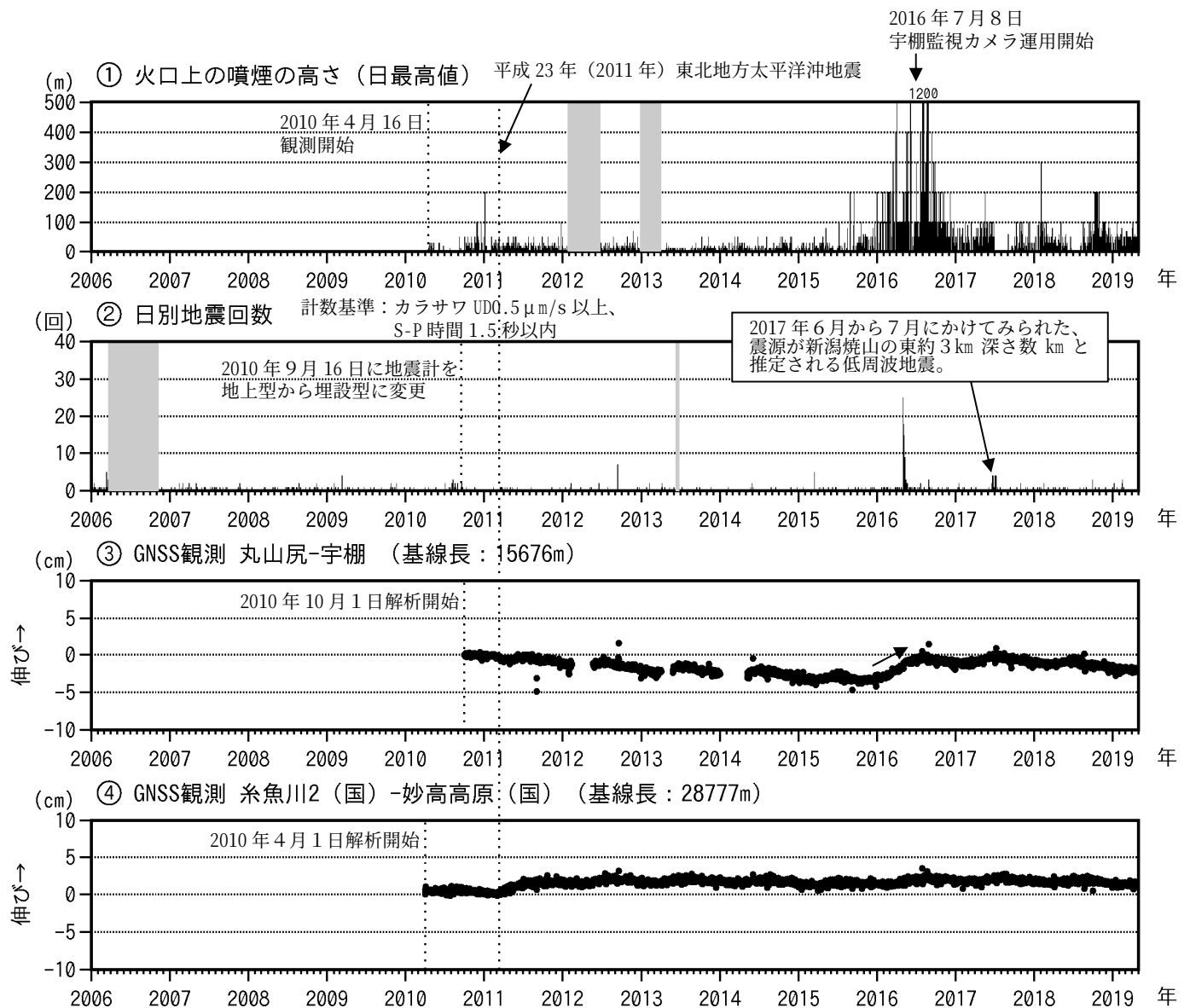


図 3 新潟焼山 火山活動経過図（2006 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日）

（国）：国土地理院

①②の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

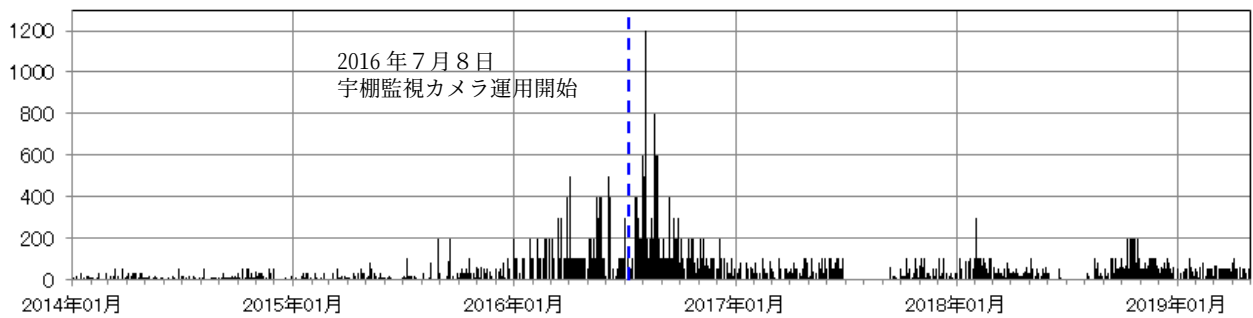
③④の空白部分は欠測を示します。

③④は図 1 の③④に対応しています。

平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

- ・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上概ね 100m 以下で経過しました。
- ・2017 年 7 月から 8 月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・③の基線で 2016 年 1 月頃から 2016 年夏頃にかけて伸び（矢印）の変化がみられました。

(m) ① 新潟焼山 噴煙高度の推移（日最高値）



(m) ② 新潟焼山 噴煙の長さの推移（日最大値）

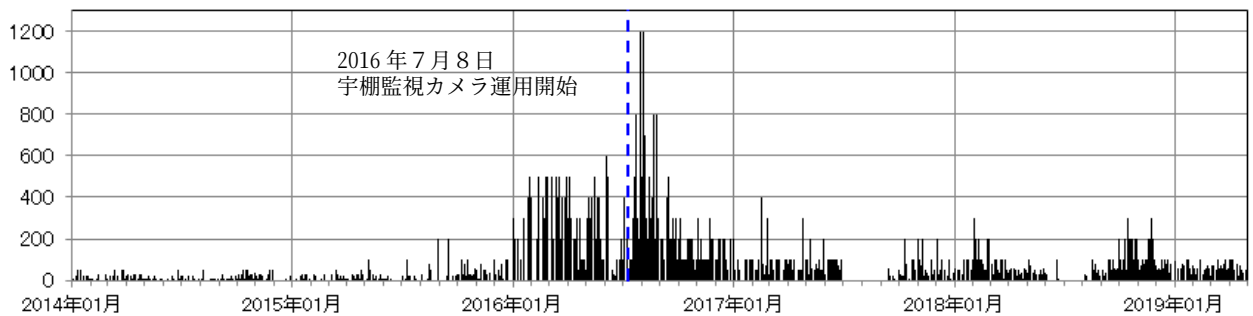


図 4 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移

（それぞれ日最高値及び日最大値、2014 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日）

噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図 5 参照）のグラフも示しています。

2016 年 7 月 8 日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図 1 を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・ 2017 年 7 月から 8 月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・ 2015 年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015 年 12 月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、気象条件により噴煙が高く上がる日はあるものの、2016 年秋から噴煙高度は低下した状態で経過しています。

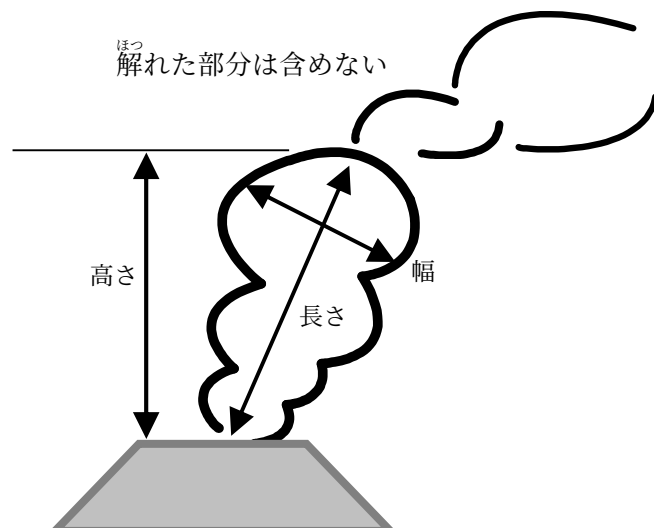


図 5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

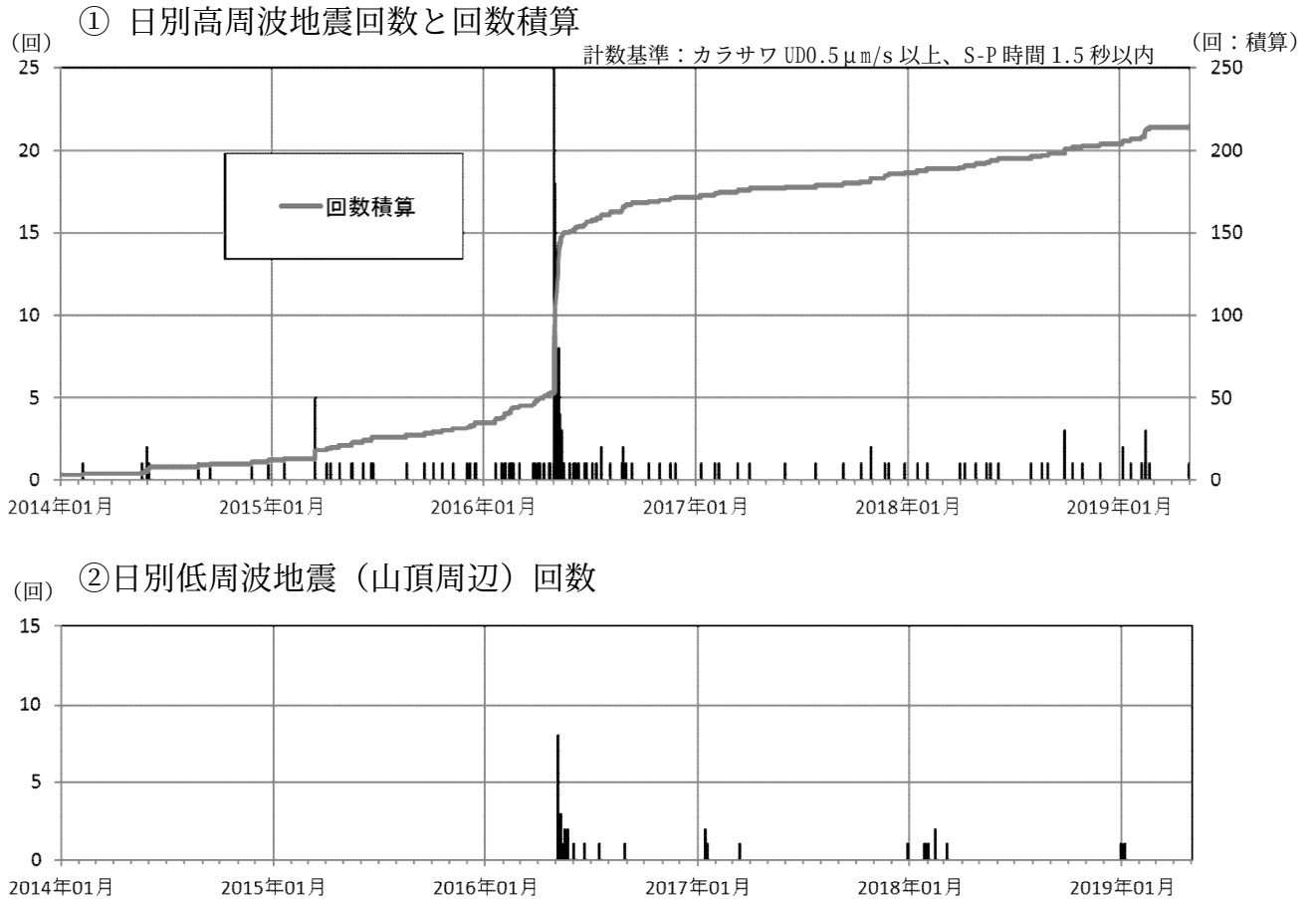


図 6 新潟焼山 日別地震回数（2014 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日）

地震の主な種類（図 7 参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・ 2016 年 5 月頃に火山性地震回数が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016 年 6 月以降、火山性地震は減少しています。

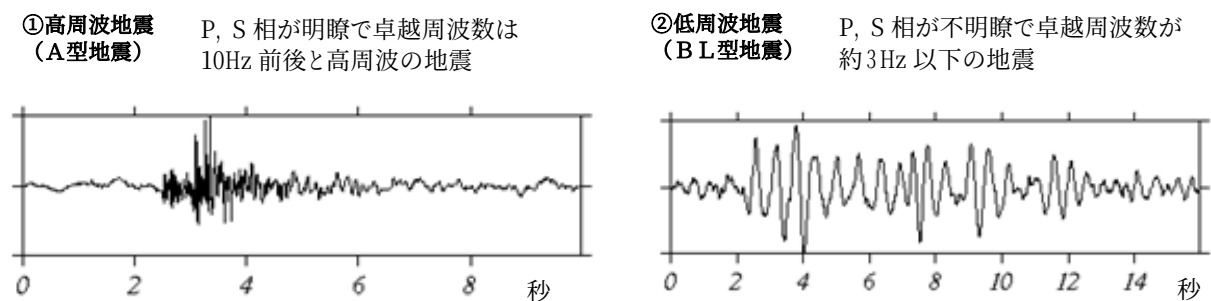


図 7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

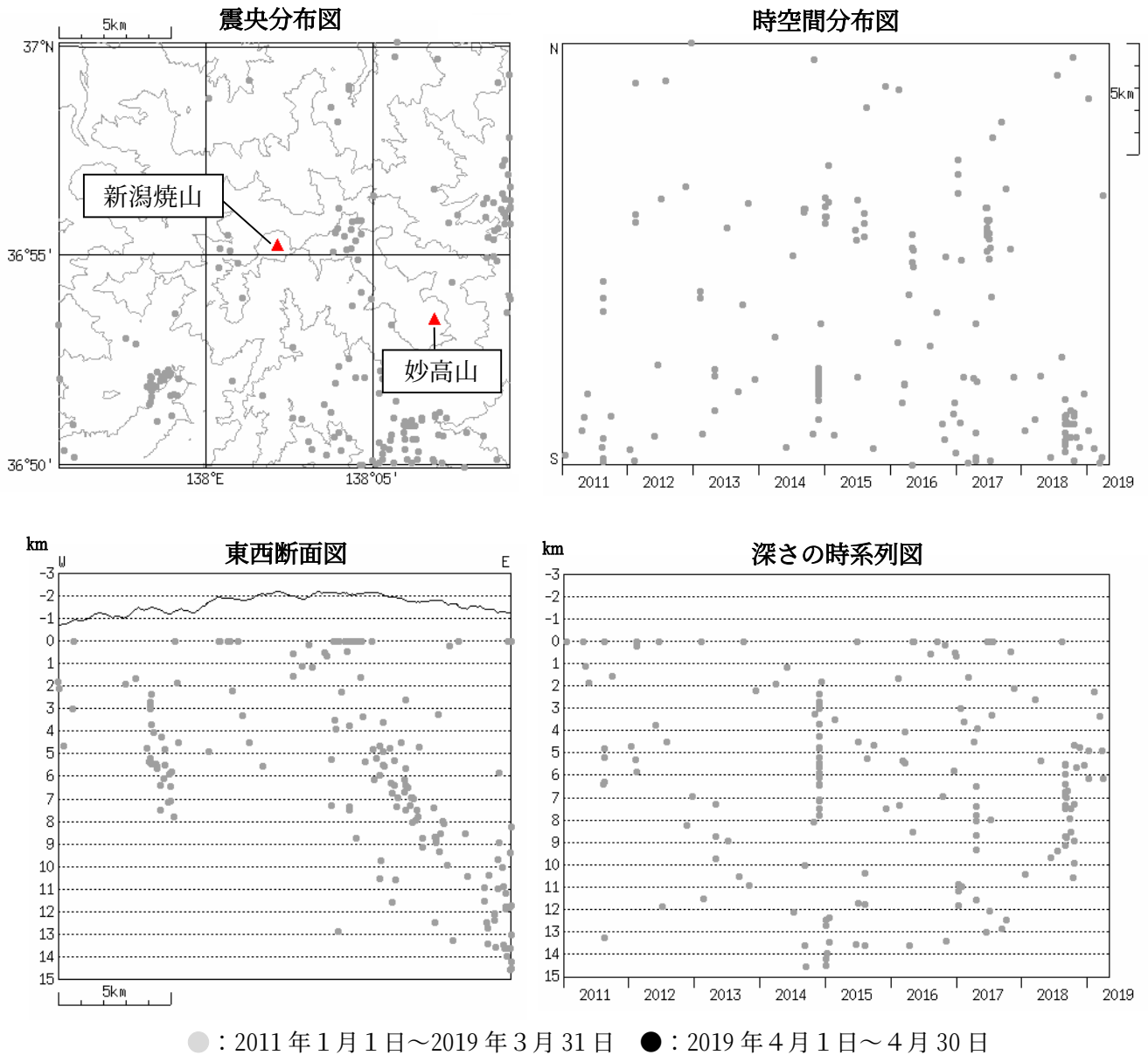


図 8 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・今期間、新潟焼山周辺では、震源が求まる地震はありませんでした。

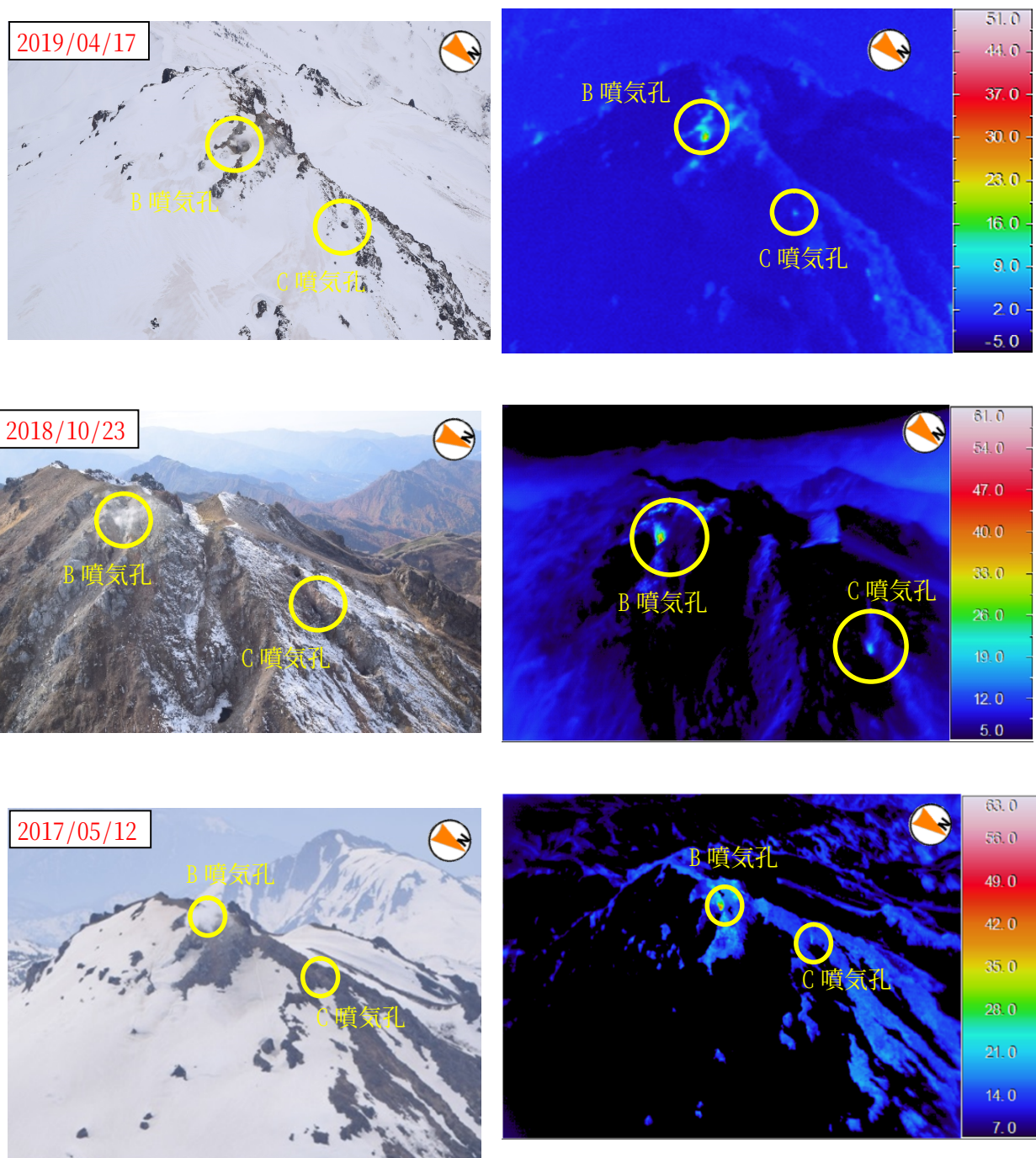


図9 新潟焼山 山頂部北東斜面の可視画像と赤外熱映像装置による地表面温度分布

（2019 年 4 月 17 日：新潟県消防防災航空隊の協力、2018 年 10 月 23 日：北陸地方整備局松本砂防事務所の協力、2017 年 5 月 12 日：新潟県消防防災航空隊の協力）

- ・弱い噴気が、B 噴気孔から高さ 10～20m 程度、C 噴気孔から高さ 2～3m 程度まで上がっていました。他の場所では噴気は認められませんでした。
- ・赤外熱映像装置による観測では、B 噴気孔およびその周辺で引き続き高温領域が認められました。
- ・前回（2018 年 10 月 23 日）の観測と比較して、顕著な変化は認められませんでした。